



発行日：令和8年3月25日

「学びの主体の転換～教師主体・主導の授業から子ども主体の授業へ～」

校長 土居 彰一

今年度も、保護者・地域の皆様の温かなご理解とご協力に支えられ、教育活動を進めることができました。心より感謝申し上げます。

本号では、今年度を振り返りながら、本校が大切にしてきた授業づくりの視点（「教師主体・主導の授業から子ども主体の授業への転換」）についてお伝えします。

### 1 なぜ「子ども主体」なのか

特別支援教育においては子ども一人一人の実態に応じた指導・支援は欠かせません。これまでの授業では、教師が内容や進め方を細かく計画し、子どもがそれに沿って活動する場面が多くありました。

一方で、子ども自身が「やってみたい」「選びたい」「伝えたい」と感じ、主体的に関わる学びは、子どもの意欲や自己肯定感、コミュニケーションの力を大きく育てることができます。子ども主体の授業とは、決して教師の役割が小さくなることではなく、教師が環境や関わりを工夫し、子どもの学びを引き出す授業です。

### 2 授業の中で見られた変化

今年度、次のような姿が子どもたちに多く見られるようになりました。

- ・活動や教材を自分で選び、表情豊かに取り組む姿（主体的な学び）
- ・「次はこれがやりたい」と意思を伝えようとする姿（主体的・対話的な学び）
- ・友達や教師と関わりながら、学びを広げていく姿（協働的な学び）

これらは、子どもが「学びの主人公」になりつつある証です。小さな選択や発信の積み重ねが、将来の自立や社会参加につながっていきます。

### 3 教師の役割の転換

子ども主体の授業を支えるために、教師には次のような視点が求められます。

- ・子どもの「できる」「やりたい」を丁寧に捉えること
- ・指示や説明を減らし、「待つ」「見守る」姿勢を大切にすること
- ・学びやすい環境や選択肢を準備すること

教師が先回りして教えるのではなく、子ども自身の気づきや挑戦を支える存在となること、この転換が、授業の質を高めています。

本校はこれからも、子ども一人一人の思いや願いに寄り添った授業づくりを進めていきます。子ども自身が「分かった」「できた」「伝えられた」と実感できる学びの積み重ねを大切に、教職員一同、実践と改善を重ねてまいります。

来年度も、本校の教育活動へのご理解とご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。

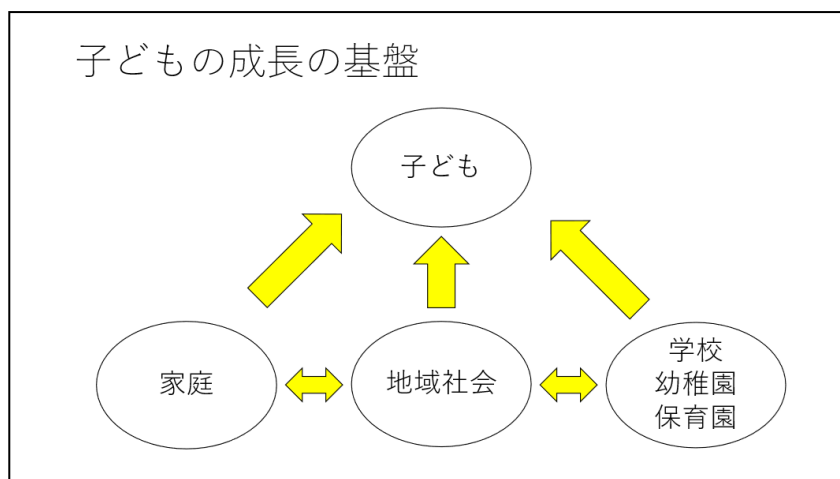
## 第4回特別支援教育研修会より

第4回の特別支援教育研修会は「コミュニケーション」をテーマに集合研修を行いました。コミュニケーションについての講話、演習を踏まえ、参加された皆さんで、指導・支援方法について協議し、有意義な研修会となりました。

今回のwithでは第4回特別支援教育研修会のテーマである「コミュニケーション」についてのお話と研修会の様子を皆さんと共有したいと思います。

### ★子どもを取り巻く環境について

子どもの成長の基盤として家庭、地域社会、学校、幼稚園、保育園などの連携が子どもの成長に影響を与えるとされています。しかし、近年では、子どもを取り巻く社会的環境が大きく変化しています。その中で「他者との関わりが苦手」という課題も現れています。少子化、核家族化、都市化、情報化などから生活様式の多様化、地域の地縁的なつながりの希薄化、他者との関わりの希薄化といった理由が挙げられています。また、新型コロナウイルス感染症による生活様式の変化が、より拍車をかけたともされています。子どもの成長に大きく社会的環境が関わっていることを理解していく必要がありますね。



### 近年の子どもの育ちの現状

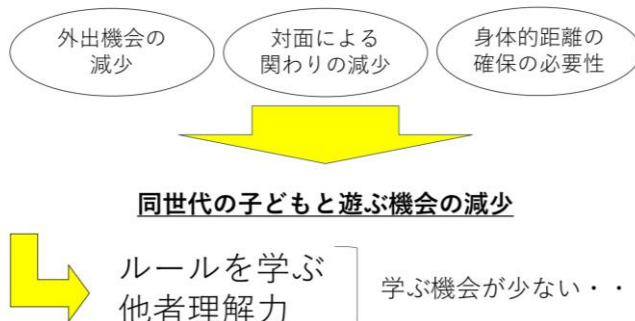
#### 指摘されている幼児の育ちの課題

- ・ 基本的な生活習慣や態度が身に付いていない
- ・ **他者との関わりが苦手**
- ・ 自制心や体制、規範意識が十分に育っていない
- ・ 運動能力が低下している

#### 小学校1年生などの教室で見られる状況

- ・ 学習に集中できない
- ・ **児童生徒が教員の話を見聞かず、授業が成立しない**

### 子どもへの影響



コミュニケーションの多くは、言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションでやりとりされます。先にお伝えした社会的環境の変化によってマスク着用などの影響で乳幼児期に急速に発達する非言語コミュニケーションにも影響が出ていることも理解しておく必要があります。

## ★コミュニケーションについて

子どもが「他者との関わり方が苦手」という課題があることで、どのように関わりをもてば良いのだろうと指導・支援の難しさも出てきます。コミュニケーションについては、「人間が意思や感情などを相互に伝え合うこと。」とされ今回の研修会では、「こちらの言葉や指示を受けて相手の行動変容が認められたとき」という理解のもと研修を進めました。つまり、伝えた（話した）から相手に伝わったではないということの本研修では確認しています。

### 「伝わる」はどういう状態なのか？

「こちらの言葉や指示を受けて  
相手の行動変容が認められたとき」

**伝えた（話した） ≠ 伝わった**

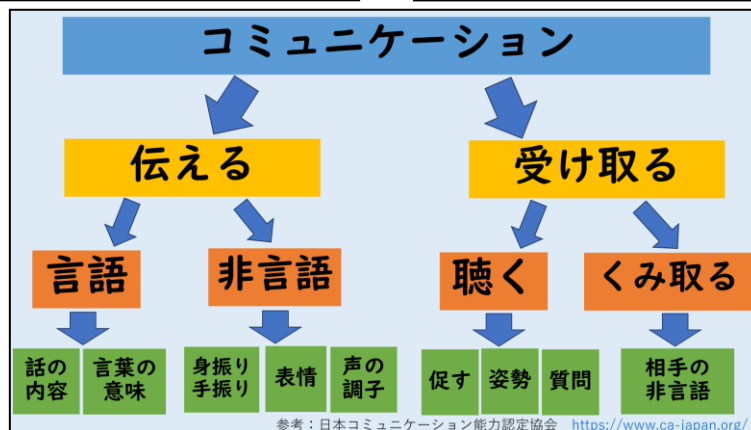


### どういったときに伝わらないのか？

- 伝える方法が、受け取る側に合っていない
- 情報量が多い
- 内容はわかるが受け止められない

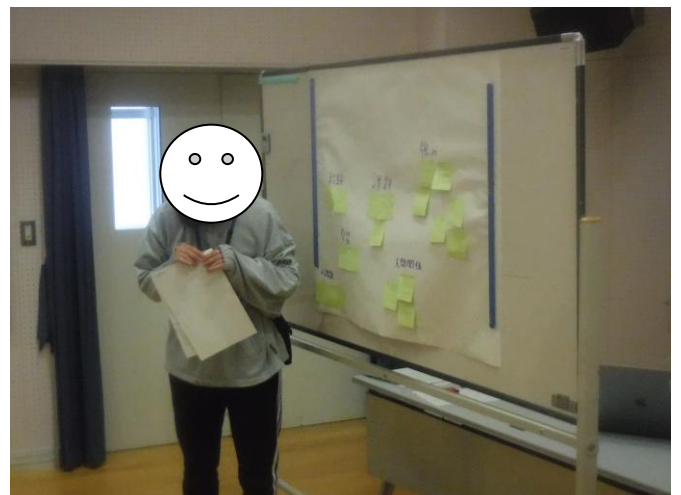


たしかに伝えるためには  
相手に合わせて伝え方を変える



## ★演習

今回の研修では、参加者同士でのグループ演習を行いました。コミュニケーションに課題がある児童の事例を取り上げて、指導・支援方法について協議していただきました。各グループで事例となる児童の実態と課題を整理し、支援方法を参加者それぞれの視点で話し合っていました。段階に応じた支援方法や課題に対してどのようなアプローチが効果的なのかなど、参加者同士での積極的な議論がなされていました。



## ★まとめ

研修のまとめの1つとして、指導・支援をしていく上で結果だけを褒めるだけでなく様々な承認を意識すること、行動の客観的評価を意識させるなど最後にお伝えさせていただきました。

子どもの実態は様々ではありますが、多くの影響を受けて日々成長しています。昨日うまくいった支援が、今日うまくいかないと言われるほど毎日の生活の中で子どもは大きく成長しています。その成長をポジティブに捉え毎日関わり、支援していけるように私たちも学びを深めていきましょう。

### ①感情や衝動的な結果にとらわれず、自分の行動や努力、そしてその結果を客観的に捉え直すことを促す

褒め方:「結果」から「努力・プロセス」への脱中心化を図る

「褒められていることがわかる」が「○」

「ご褒美や賞賛、成功、『できた』を楽しみにして、最後まで行動できる」が「△」

賞賛されると「うれしいと感じたり自信を持ったりすることができる」が「△」

→外的な賞賛は動機付けになるが、「目の前のことがうまくできないと気持ちが不安定になる」こともある



## さまざまな承認を意識

### 様々な承認

1	存在承認	今日もこの場に来てくれて嬉しい・ありがとう
2	意欲承認	今、やろうとしていたね
3	プロセス承認	ここまでよく頑張ったね
4	行動承認	その行動、ぜひ続けてね
5	成長承認	前はあきらめていたけど、粘り強くなったね
6	結果承認	よくできました!!

※結果承認だけになっていませんか?  
やってみよう」という過程を大事にできる支援者でありたいですね!

引用: 子どもの行動の受け止め方 (大人の心構え編)、子どものつまずきの背景理解 (意味がわかれば関わりがひろがる)  
(川上康則 講演 全国特別支援学校知的障がい教育校PTA連合会 全知P連 理解啓発事業)  
引用者において※部分、下線を追加

子どもは、結果だけを評価されることは多くあると思いますが、その前段階として子どもには評価されるべき事がたくさんあります。それを私たちが意識してアクション（声掛けジェスチャー等）をするだけでお互いに良い関係が築けるだけではなく、子どもの自信と成長につながる支援となっていきます。

発揮できるパフォーマンスはその日の体調や心情など多くのものに左右されます。子どもの中には特にその影響が顕著に出やすい方もいます。期待値を上げすぎるとお互いに苦しくなりトライ&エラーの保証が難しくなってしまいうこともるので、目標設定もそうですが、スモールステップを意識し、その日その日の期待値の調整も私たちが意識して行く必要があります。

### トライ&エラーを保障する

- ・25%の達成度でコツコツ認めていく
- ・教室内がギスギス・トゲトゲすると間違いや失敗が許されない雰囲気になっていく。
- ・自信ははじめからは作れない。
- ・失敗しても取り返せる場面を何度も設定してあげると前向きになれるし、自分から試行錯誤する習慣ができてくる。  
(学校も家庭も本来、安全に失敗でき、何度もトライできる場)

※注意!)ノールールということではありません!!

引用: 子どもの行動の受け止め方 (大人の心構え編)、子どものつまずきの背景理解 (意味がわかれば関わりがひろがる)  
(川上康則 講演 全国特別支援学校知的障がい教育校PTA連合会 全知P連 理解啓発事業)  
引用者において※部分を追加

今回のWithでは、研修会で取り扱った内容を元にコミュニケーションについて共有しました。子どもとのコミュニケーションに関する指導・支援におけるヒントになればと思います。最後まで、お読みいただきありがとうございました。

また、一年間研修会の参加をはじめとした本校の活動へのご協力ありがとうございました。